

医学部附属医院薬局長酒井隆吉，農学博士酒井隆太郎の関係資料を大学文書館で受贈

7月18日（木）・19日（金），大学文書館では，森枝かつら様から，ご祖父酒井隆吉氏，ご尊父酒井隆太郎氏の関係資料をご寄贈いただきました。

酒井隆吉（1889-1934年）は，1915（大正4）年に東京帝国大学医科大学薬学科を卒業し，陸軍の薬剤官，県立熊本病院薬剤部長，私立熊本医学専門学校や熊本県立医学専門学校の教授を歴任しました。1921年9月，北海道帝国大学医学部附属医院の開院にあたり薬局長兼助教授として着任し，附属医院薬局の創設にあたります。1927（昭和2）年から3年間，臓器薬品化学研究のためドイツに留学しベルリン大学などで学ぶとともに，ヨーロッパ各地の病院薬局を視察しました。附属医院薬局では薬剤業務のみではなく，事務的手腕も発揮し事務官も兼任しますが，1934年に在職のまま逝去されました。

ご寄贈いただいた酒井隆吉の関係資料は，日記，学生時代のノート，ドイツ留学時代の絵はがき，辞令類，記念品，初代総長佐藤昌介の書，当時の医学部長今裕の絵・色紙などです。附属医院薬局長としての活動の幅広さを示す多種に及ぶ資料です。

酒井隆太郎（1921-2019年）は，酒井隆吉の子息です。1942年に農業技術を主に学ぶコースである農学実科を卒業し，戦後改めて農学部農業生物学科を1950年に卒業しました。農林省北海道農業試験場，同省農業技術研究所で研究に従事し，その後に帯広畜産大学教授を務めました。1960年には論文「馬鈴薯疫病菌の培養に関する栄養生理学的研究」で北海道大学から農学博士号を取得しています。

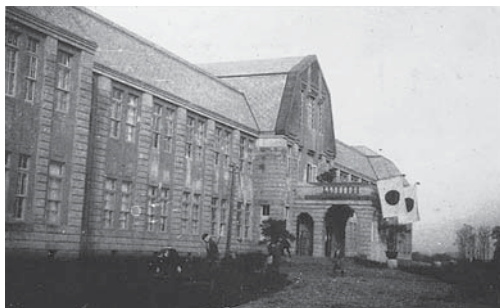
ご寄贈いただいた酒井隆太郎の関係資料は，学生手帳，時間割，催し物のプログラム，実験記録ノート，卒業論文，辞令類，写真などです。戦中から戦後に掛けての学生生活を示す貴重な資料です。

今後，受贈資料は，大学文書館で大切に保存し，利用して参ります。

（大学文書館）



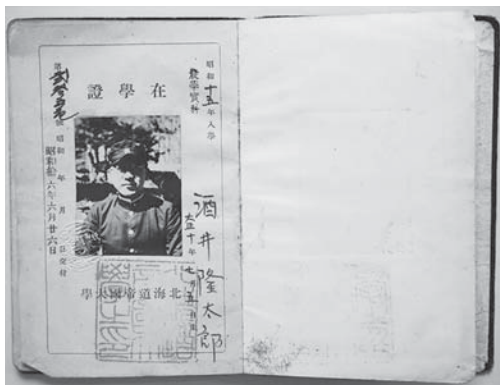
酒井隆吉肖像画



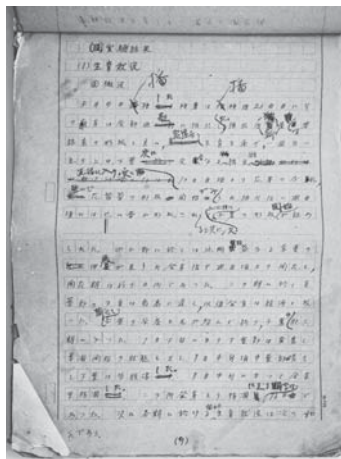
医院開院時の建物外観（1921年）



医院開院時の薬局内部（1921年）



酒井隆太郎の農学実科生徒手帳（1941年）



酒井隆太郎の農学部卒業論文「馬鈴薯生育期間中に於ける莖葉部の窒素化合物の消長に就て」原稿（1950年）